

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「海外大学にも近い府立高校」として、生徒・教職員共に、校訓である「自主自律」「和親協力」と、常にチャレンジするマインドを持ち、グローバルな視点で高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」が育つ学校 ＜生徒に身につけてほしい４つの力＞ (１) 幅広い知識と教養を身につけ、失敗を恐れず、チャレンジ精神とプラス思考で自らの将来を切り拓く力 (２) グローバルな視野で、異なる文化・価値観を持った人々を受容、理解し、協働する力 (３) 現代の諸課題に向き合い、複数の想定の中から最適解を求め、自ら考え、判断し、行動する力 (４) 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、他者や身近な社会の中で、自らの強みを主体的に発揮し、社会的貢献ができる力

2 中期的目標

１ 確かな学力と高い志をはぐくみ、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る (１) グローバル科・普通科併設校の特色及び実績を活かして、生徒の学習意欲の更なる向上を図り、確かな学力を育成する。 ア 学校での学びと家庭学習を効果的に結びつけ、高校生として必要な基礎学力の定着をはかる。 イ 総合的な探究の時間を中心に学習活動全般で、社会人として通用する基礎的・汎用的能力の土台作りを行う。 ウ ICT を活用した取組みを組織的に更に推進する。 エ 生徒の学習指導評価(学校教育自己診断・設問7～11)における肯定的評価を前年度以上、令和8年度には 93%以上とする。(R3:88%,R4:88%,R5 89%) オ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を活用する。具体的にはシラバスに必ず盛り込む項目を定め、十分に内容を精査して作成、それに沿った実践を徹底する。 (２) 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。 ア 生徒による授業アンケート結果等の活用。授業の「めあて」の提示・「生徒の学習活動」・「振り返り」を全教科で実践し、AL 型・PBL 型・TBL 型の授業力向上を図る。 イ 学力生活実態調査・基礎学力調査等関連資料やデータを分析・活用し、生徒の希望する進路実現に相応しい学力養成に努める。 ウ 国公立大学への進学実績を伸ばす。国公立大学合格者を前年度以上とし、令和8年度は 60 名超とする。(R3:63 名,R4:29 名、R5: 44 名) エ 海外大学進学説明会・海外進学交流会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深めて海外大学への進学をめざす生徒を支援する。 オ 進路・学習状況を保護者に適切に提供する。 ※ 3年生4月当初の希望する進路の実現達成率を前年度以上とし、令和8年度は 80%以上にする。(R3:52%,R4 :44%,R5 :47%) [R3新規] ※ 海外大学合格者数を R8年度には 10 名以上とする。(R3:4名,R4 :6名,R5 :4名) (３) 魅力づくりと効果的な情報発信で、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校をめざす。 ア 学校説明会・見学会の積極的実施及び本校ホームページ、校長ブログを活用した最新の学校情報の発信に努める。 イ 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。 ※ HP 更新回数の 100 回以上の継続及び学校教育自己診断保護者における「教育情報の提供」の「肯定的評価」を R8年度には 94%以上とする。(R3:62%、R4:88%,R5:75%) HP のアクセス数を R8年度には 200,000 以上とする。(R3: 110,274,R4:191,767,R5:184,317) ２ あらゆる教育活動で「21 世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する (１) 学校における教育活動のあらゆる場で、生徒の言語活動の充実を図る。 ア 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開と更なる英語教育の充実を図り、卓越した英語力をはぐくむ。 「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、バランス良い4技能の修得、英語でのプレゼンテーションやディベートを中心に英語教育の更なる深化を図る。 イ CEFR を外部評価基準とし、英語学力調査をグローバル科及び普通科全体で継続し学力を伸長させる。 ※ R8年度にはグローバル科2年生の CEFR B1以上:72%以上、B2以上:14%以上とする。(R3: B1 62%/ B2 6%, R4: B1 81%/ B2 0%, R5:B1 70%/B2 2%) R8年度には普通科2年生の CEFR A2以上:100%、B1以上:37%以上とする。(R3: A2 67%/ B1 27%, R4: A2 96%/ B1 33%, R5:A2 97%/ B1 32%) (２)教科教育・教科外教育活動のあらゆる場で、デザイン思考ができる生徒を育成する。 ア 「総合的な探究の時間」において、協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、生徒一人ひとりが SDGs の視点も踏まえ、課題に関連し自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。「探究学習」の成果を広く全国に発信する。 イ ロジカルシンキング・クリティカルシンキングを学び、そのスキルを習得できるよう「総合的な探究の時間」を中心に実践を広げ、通常授業へ順次導入していく。 ウ 海外研修や修学旅行についても、事前事後学習も含む全過程を通じてデザイン思考成果発表へとつなげる。 エ 「3つのポリシー」「関連単元配列表」「教科等横断用マトリックス表」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、教科の枠を超えた学びを実践する。 (３) 多様性への理解・共感力をはぐくむ。 ア 他校の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。 イ 夏期海外研修、Tokyo Global Gateway,海外大学説明会・交流会、SDGs 東南アジアスタディツアーなどで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。 ３ 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり (１) 教育相談、保健教育、人権教育をさらに推進し、安全で安心な学びに向かう環境づくりを推進・充実させる。 ア 教員と SC の協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。 イ いじめを根絶すべき重要課題と認識し、未然防止、早期発見、組織的対応に取り組む。 ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある自然災害等に備えた体制を確立する。 エ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修等を通じて、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。 オ 総ての教育活動で人権に関する学びを深めるとともに、保護者にも学校の取組みを周知するよう努める。 ※ 学校教育自己診断における「教育相談」(生徒)の「肯定的評価」を R8年度には 77 % 以上とする。(R3:68%,R4:72%,R5:72%)、「いじめ対応」(生徒)の「肯定的評価」を R8年度には 94 % 以上とする。(R3:89%,R4:89%,R5:91%)、「災害時の情報提供」(生徒)の「肯定的評価」を R8年度には 72 % 以上とする。(R3:56%,R4:60%,R5:59%) (２)生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。 ア 基礎的な生活習慣の定着を進める。 イ 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。 ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、生徒の自主活動や部活動と教職員の働き方とのより良いバランスを実現する。 ※ 学校教育自己診断における「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」(生徒)の「肯定的評価」を R8年度には 94%以上とする。(R3:91%,R4:90%,R5:93%) (３)地域との連携を推進し様々な機会を通じて情報発信と協働を行う。

ア 生徒会や部活動を中心に地域のイベント、清掃活動、ボランティア活動等に参加し、地域への協力を進める。 イ HP 等の電子媒体、リーフレット等の紙媒体及び学校説明会等広報活動を通じて、情報発信の更なる充実に努め、本校への理解の向上を図る。 ※ 本校学校説明会・見学会ののべ参加者を R8年度には 3600 名以上とする。(R3:3156 名,R4: 3148 名 R5:4,169 名) 4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み (1) 個々の教職員のモラルと人間力の向上を図りながら、教科会議・研修の充実・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担による学校組織力の向上を実現する。 (2) 探究学習、教科等横断用マトリックス表を活用した、教科の枠を超えた取組みを教員間での温度差なく推進する。 (3) ICT 活用マインドの醸成と実際の活用推進。 (4)「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。 ※ ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を継続する。(R3:88,R4:91,R5:96)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
令和6年度学校教育自己診断の結果と分析 例年と同時期の 12 月にフォーム作成ツールで実施。質問数は 31 項目。 生徒 909 人、保護者 624 人、教職員 51 人から回答を得た。 《全体としてのまとめ》 前年度と比較して、肯定的評価が up した項目数と down した項目数は、次のとおりである。 1 年生は前年度 1 年生との比較、2・3 年生および教員は経年推移としている。 【生徒】up/down(カッコ内は前年のもの) 1 年: 27/4 (15/16) 2 年: 16/15 (14/17) 3 年: 20/9 (25/6) 【保護者】 1 年: 26/5 (7/23) 2 年: 14/17 (14/17) 3 年: 21/10 (19/11) 【教員】 15/16(16/13) 《生徒による評価》 全 体) 従来と大きく変わらず、学校生活を肯定的にとらえている生徒が多いことがうかがえる。1 人 1 台端末の活用については教員同様にポイントが高く、多くの授業で端末を活用していることが読み取れる。 1 年生) 昨年度の 1 年生と比べて、項目 1・2・3・14 の肯定的評価がわずかに下がったものの、肯定的評価のポイントが大きく上がっている。 2 年生) 学校生活に慣れてきたことによる影響が読み取れる。良い面として「22. 担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生方がいる。」が 7.8 ポイント上昇している。生徒と教員の信頼関係が築かれていることを示しているものと考えられる。その一方、生活全般への気がゆるみやすい時期でもあるので、生徒指導に関する項目の肯定的評価がわずかに下がった。 3 年生) 学習指導・国際に関する項目のうち、「9. 授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」「27. 英語教育が充実している。」のポイントが減少した。全般的なものや学校行事等の項目は肯定的評価が上昇している。 《保護者による評価》 全 体) 「29. 箕面高校の授業参観や学校行事を見学、参加をしたことがある。」の肯定的評価が昨年度より上昇した。体育祭・文化祭はもとより、授業公開・懇談・進路講演会等、多くの保護者の方に学校に来ていただくことができた。 学校からの情報発信が昨年度の結果から浮かび上がってきたが、今年度の肯定的評価は微増であった。メールやHPでの情報発信を引き続き行っていく。生徒との回答に開きがあったのは、昨年度同様「7. 子どもは、授業はわかりやすいと言っている。」の項目で、生徒の「7. 授業はわかりやすく楽しい。」の肯定的評価が 82.0%であったのに対し、保護者の肯定的評価が 54.2%であった。「9. 学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。」の肯定的評価が 55.6%という結果と併せると、授業公開は3日間のみであり、科目が多岐にわたるためどのような情報を発信していくかが今後の検討課題である。また、生徒指導・進路指導についても肯定的評価が低い傾向にあり、アイデアやご意見も頂戴した。課題を真摯に受け止め、少しずつでもよりよい教育活動が行えるように学校全体で改善にあたっていきたい。	令和6年度第1回 学校運営協議会より（令和6年7月 12 日(金)実施） (1) 保護者からの意見書提出状況 ○ 保護者からの意見書提出はなかったことの報告。 (2) 令和5年度 進路実績 ○ 共通テストの出願率は 72.9%と例年の8割と比較すると低下した。受験生の共通テスト離れは顕著に出てきており、また年内入試の枠が広がりつつある入試事情もあり、少しでも早く合格を得たいという生徒が増えてきている。私立大の専願者も共通テストは関係ないではなくて、共通テストを利用した可否の判定もあり、両方受けることで合格率上がるという指導もしている状況である。 ☆ 意見・質問等 ・全国の状況もほぼ同じで、年内に早期に終わっておきたいという生徒が増えており、推薦総合型という入試に走っている。逆にいうと上をめざして最後まで頑張ろうという雰囲気があれば、いいのだと思う。 (3) 令和7年度使用教科用図書の選定状況 ○ 選定理由のとおり、適正に選定されていることを報告。また、3 年生が新課程 最初ということで新たな教科書も多々あるので参考にご覧いただいた。 ☆ 意見・質問等 ・今年度に関して入試でいうと新課程旧課程で不利にならないようにというのがどの大学でも共通である。とはいえ、浪人回避の傾向は今後横ばい以上にはなと思う。特に文系生徒は一つ志望を下げてでも大学生になっておきたいという傾向は加速するだろうと思う。 (4) 令和6年度学校経営計画 ○ 資料については令和5年度の第3回学校運営協議会でご覧いただいたものと概ね同じである。カテゴリ毎の方針をまとめた資料や、さらに注力するポイントを全教職員に4 月当初に示した資料も含む。注力するポイントは、縦横の深化と強化科目横断型教育の推進、ICT 活用の高度化による公務分掌業務等の効率化のマニュアル化、教職員の資質向上と学校の組織力向上の取組み、探究事業の取組みの充実化、遅刻者総数の減少への取組みである。 ☆ 意見・質問等 ・偏差値 70 で東大A判定の子が共通テストの長い文章が読めないという。教科横断型のところに物を読むという習慣がベースにないとなかなか次に繋がっていきにくい。そのことから共通テスト離れというところにも全部繋がっていつているのかなと思う。 ・箕面の生徒ってあんまり本読まないのか。 ⇒本を開くという子は少ない。教室等を見まわしてもスマホを見ており、よくて単語帳を見ている。 ・この本を読まないっていう話が出てきてから、10 年 20 年経っているんじゃないかと思う。 ・中学でも読書率はなかなか上がらない。 ・読書の習慣を作るのは小学校に入るまでの家庭だと思う。ちょっとここでは議論できない。 (5) その他 ☆ 意見・質問等 ・高校現場の SC の状況は。 ⇒カウンセリング、年間 20 数回あるので毎週ってことではないが、毎回予約がいっぱいである。生徒だけでなく、保護者の申し込みも増えている。この後、令和6年度使用教科用図書をご確認頂いた。【承認の可否】全会一致で承認された 令和6年度第2回 学校運営協議会より（令和6年 11 月 22 日(金)実施） (1) 保護者からの意見書提出状況 ○ 前回の協議会以降、保護者からの意見書提出はなかったことを報告。 (2) 授業見学 ○ 数学1名、英語1名、理科1名 の授業に入込み。その他、全クラスを廊下から見学 した。 ☆ 意見・質問等 ・最近の授業は子供が聞きたいと思えるような工夫をしないと昔のようにチョークと黒板とトークだけで子供がついてくるというのは難しい。そういう工夫をしているのと見せて引きつけようという授業もあれば昔ながらの授業もあった。 ・昔の自分との比較になるが、寝ている生徒が少ないと感じた。また自習室には、赤本もたくさんあって、良かった。 (3) 令和6年度学校経営計画 進捗状況

府立箕面高等学校

経年比較 2、3年生)2年生では前年度より肯定的評価が下がり、3年生では前年度より肯定的評価が上がる傾向にあり、今回も同様の変化が見られた。生徒の結果にも同様の変化が見られることから、2年生は3年間の高校生活の中でも学習面や学校行事に部活動と悩みや葛藤を感じる局面が一番多いので、肯定的評価が下がる傾向にあると思われる。そして、3年生では部活動や行事で大きく成長し、自己実現に向けて学習に一生懸命に取り組んでいるので肯定的評価が上がる。いずれの時期においても保護者の方がご家庭において、お子様に寄り添ってサポートしていच्छやるからこそ生徒と同様の変化が数値に表れているのではないかと推察する。 《教員による評価》 全 体)「17. 生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」「24. ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。」の肯定的評価が 10 ポイント以上上昇した。今年度は遅刻指導や授業開始前の着席指導の強化などを学校全体で行っている。その一方で、生徒指導や教育相談に関する項目で肯定的評価が下がっており、その背景には、業務の偏りに課題があると考えられる。分掌や学年団での業務平準化に対する取り組みを引き続き行っていきたい。	○ 学校経営計画において特に下記の進捗状況について報告した。・総合的な探究の時間を中心にした学習活動 ・3年間を見通した学習指導及び進路指導計画の活用 ・魅力づくりと効果的な情報発信について ・多様性への理解・共感力をはぐむ取り組み ・基礎的な生活習慣の定着と自主的な活動を推進する取り組み ・教職員の資質向上と学校の組織力向上の取り組み ☆ 意見・質問等 ・総合的な探究の時間を苦手になっている先生はいるか。⇒やはり自分の教科以外のことということでプラスアルファを説明しづらい。それが正しいのか正しくないのかっていうところも含めて考えることは多い。探究委員会でブラッシュアップしていく形で来年も状況を考えてながら共有して教育活動を行っていく。・箕面高校の入学者選抜の問題はCにはしてほしくない。特に英語のCは中学校の進路指導でいうと英検2級を所持していれば勉強せずに受験するので、入試と違うところでの影響が出てくるような気がしている。⇒今後も様々な動向を見ながら検討する。・先生方の研修については研修を受けることで何か得るものはあるはずなので、そういう意識を持って研修に参加しないといけないことには同感である。資質向上は必要なことだけど、当人が自覚を持たない限りなかなか強制しても進まないし、難しい問題であることは理解できる。 (4) その他 特記事項なし。 令和6年度第3回 学校運営協議会より (令和7年1月 31 日(金)実施) 1. 保護者からの意見書提出状況 ○ 前回の協議会以降、保護者からの意見書提出はなかったことを報告。 ☆ 意見・質問等 特記事項なし 2. 令和6年度学校教育自己診断結果報告 ○ 1年生の肯定的評価が昨年度に比べどの項目も高かった。 ○ 保護者の肯定的評価が学年の経過と共に上がっていくという傾向は例年見られるが、このことから子供たちがよく学校のこと話してくれていると感じる。良いことも悪いことも含めて子供と保護者がしっかり話できる環境が整っているからこそその傾向だと認識している。 ○ 教員評価では遅刻指導や授業規律という生徒への指導、アプローチを少し変えたところのポイントが上がっているの、教員全体で同じ意識をもって指導にあたることができた」と認識。一方、業務の偏りによって一部の教員への負担が多いということが今後の課題であり、対策の検討を急ぐ。 ☆ 意見・質問等 特記事項なし 3. 令和6年度学校経営計画に係る学校評価 ○重点課題は概ね順調に執り行うことができた。特に探求の授業の充実については次年度においても継続とさらなる深化の必要を感じている。 ☆ 意見・質問等 ICT 関連のシステムの更新等の影響からストレスチェックの値が微増してきている。⇒新しいことやればストレス上がるのは当然のことだし、求められるものがはっきりしてくるとやっぱりそれはストレスになる。一定のストレスは仕事をしていく上で必要であり、ストレスがあつてこそ前に進むのではないかと、との意見をいただく。 ・学校評価は承認される。 4. 令和7年度学校経営計画 ○令和6年度学校経営計画をベースにマイナーチェンジを施した。令和7年度の学校経営計画に新たに含めたキーワードは下記の点。 ・総合的な探究の時間の充実化 ・教科等横断の一層の推進 ・ABIC 関学英語研修の追加 ・業務平準化の促進 ・ICT 機器の一層の活用 ☆ 意見・質問等 ・学校経営計画の中期的目標は承認される。 (5) その他 特記事項なし
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
志望進路の実現を図る	1 確かな学力と高い志をはぐくみ、すべての生徒の第1. は (1)生徒の学習意欲の向上、確かな学力の育成 ア 学習習慣の定着。 イ 基礎的・汎用的能力の育成。 ウ 1人1台端末の活用	(1) ア・家庭における予習、復習を前提とした授業づくり。 イ・キャリア教育の充実。 ウ・授業・家庭学習に1人1台端末を効果的に取り入れ、生徒の	(1) ア・第1・2学年で実施している学力生活実態調査による平均家庭学習時間を、2年生 平日1時間45分・休日2時間45分、1年生 平日1時間30分・休日2時間30分とする。[1時間・1時間35分/44分・1時間11分] イ・年間3回のキャリア教育を授業で行う。 ウ・「箕面高校は、1人1台端末を効果的に活用している」(生徒・保	(1) ア・2年生は平日 46 分、休日1時間12 分、1年生は平日 35 分、休日1時間とともに目標未達。(△) イ・年間3回のキャリア教育実施。(○) ウ・生徒は 91%、保護者は 67%だが

府立箕面高等学校

	エ 授業満足度の向上。 オ 3年間を見通した学習指導及び進路指導計画の活用。 (2)授業改善及び希望する進路を切り拓く学力の育成。 ア 授業アンケート結果等の活用。授業改善。 イ 希望する進路実現に相応しい学力の養成。 ウ 国公立大学への進学実績の伸長。 エ 海外大学進学をめざす生徒支援。 オ 保護者との連携 (3) 魅力づくり・効果的な情報発信 ア 学校説明会・見学会、学校情報発信の充実。 イ 地域と連携した事業の展開、地域とともに成長する学校づくり。	学びの深化を図る。 エ・学習指導室を中心に、授業アンケート(7,12 月)の課題把握と成果検証、授業見学における管理職の教員へのフィードバックを更に充実し、授業改善に結びつける。 オ・3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を活用する。シラバス整備とその実践を徹底する。 (2) ア・授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。 ・学習指導室を中心に、箕高授業スタイル(本時の「めあて」の提示・生徒の学習活動・振り返り・自学)に基づく授業デザインを全教科で実践し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進する。 この点を意識した授業見学シートに変更し、教員の意識改革を行う。 イ・関連資料やデータの活用、先進校視察、外部講師による講習会の参加、校内外の優れた実践事例の研修等を通し、指導法を研究し、共有する。 ウ・国公立大学をめざすプロセスの重要性を浸透させるとともに、特色ある国公立大学等の情報を生徒・保護者に発信する。 エ・海外大学進学説明会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深め海外大学への進学をめざす生徒を支援する。 オ・コミュニケーション手段の多様化を図り、進路・学習状況を保護者に適切に提供する。 (3) ア・ホームページによる組織的な情報発信及び地域や教育産業等を通じた学校説明会を実施するなど、情報発信を丁寧かつ継続的に行う。 イ・探究の時間において、地域企業とのコラボレーションを推進、また地元の中学校への出前授業等を実施する。	護者)の肯定的評価をそれぞれ 85%/70%とする。[80%/63%] エ・生徒の学習指導評価(学校教育自己診断・設問7～11)における肯定的評価を 92%以上とする。[89%] オ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」「進路に関して丁寧に指導をしてくれる。」(生徒)の肯定的評価 95%/90%以上[94%/89%]。 (2) ア・授業満足度 82%以上[78%]。 イ・希望する進路の実現達成率 80%以上[50%] ウ・国公立大学合格者を 45 名以上とする[44 名] エ・海外大学進学希望者対象説明会を年間6回以上開催の継続、海外大学交流会2回は府立学校への公開実施[6回・2回] ・海外大学進学者数を8名以上とする【R5実績は7月末に確定】 オ・自己診断(保護者)「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている」「学習の内容や進度等を懇談や通信などによって知ることができる」の肯定的評価 68%/65%以上とする。[54%/53%] (3) ア・HP 更新回数 200 回以上の継続。地域や教育産業を通じた学校説明会の 16 回以上実施を継続する[197 回/25 回] ・自己診断「ホームページを見ている」(保護者/生徒)の「肯定的評価」70%/50%以上[65%/41%] イ・出前授業については年度内に2校以上実現する。[3校]	「わからない」との回答が 22%。(○) エ・3学年平均の肯定的評価は 92%で目標通り。(○) オ・前者は 96%、後者は 92%でともに目標達成。(◎) (2) ア・3学年平均 82%で目標達成。(○) イ・50%(△) ウ・48 名。(○) エ・それぞれ6回実施予定・2回実施済み。(○) ・海外大学進学者数は4名。(△) オ・前者 57%、後者 55%で昨年より改善、目標には未達。(△) (3) ア・HP 更新回数は 120 回。学校説明会は 23 回実施。(△)・保護者 64%、生徒 43%と依然として低い。(△) イ・出前授業は2校実施。(○)
2 あらゆる教育活動で「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する	(1)生徒の言語活動の充実を図る。 アイ 卓越した英語力をはぐくむ。 (2)デザイン思考ができる生徒の育成。 ア 「探究学習」を主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 イ 「探究学習」の思考法の授業への導入。 ウ 海外研修や修学旅行の取組みでデザイン思考をはぐくむ。 エ 教科の枠を超えた学びの創造・実践。 (3) グローバル人材育成のため多様性への理解・共感力をはぐくむ。 ア 異なる文化・価値観への共感力の向上。 イ 英語教育や国際化教育の機会の充実。	(1) ア ・広がる英語教育推進プロジェクトと教科内相互授業見学による研鑽より4技能教授スキルと授業プロセス改善に取り組む。MINOH ENGLISH VILLAGE を継続する。 イ ・統合的な英語評価(CEFR)を行い、その現状分析と課題の把握を継続し、今後の方向性と課題解決策の策定作業、そしてその実践に繋げる。 (2)クリエイティブな環境でデザイン思考を育成するプロジェクトを実施する。 ア・SDGs の視点も踏まえた「総合的な探究の時間(Link)」の充実に全校挙げて取り組む。 イエ・グラデュエーションポリシーを踏まえたカリキュラムポリシーの策定、外部リソースの有効活用で、更なるカリキュラムマネジメント・社会に開かれた教育課程の実現及び観点別学習状況の評価の充実をめざし、教科の枠を超えた学びを創造し実践する。 ウ・海外研修や修学旅行の目的・企画・実施については、学校経営計画を踏まえた取組みとする。 エ・教科等横断用マトリックス表の完成と活用。 (3) ア・他校の留学生との交流会を企画・立案・実施し、異なる文化・価値観への共感力と英語コミュニケーション能力の向上を図る。 ・本校海外大学卒業生による進路講演会を行う。 イ・夏期海外研修、海外大学説明会・交流会、SDGs 東南アジアスタディツアー、国内英語研修などで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。	アイ・ グローバル科2年生の CEFR B1 以上:67%以上/B2 以上:12%以上とする[81 %/ 0%]。・普通科2年生の CEFR B1 以上:35%以上とする[33%] ・海外大学進学者は、TOEFLIBT72 以上、IELTS5.5 以上をめざす。 (2) ア・「総合的な探究の時間(Link)」の公开发表会を年5回以上実施する[5回] イエ・先進校視察、学識経験者による研修を通じて、「総合的な探究の時間」、教科における「探究的学習」とその形成的評価、教科の枠を超えた学びについての知見・実践力を向上させるための研修5回以上[5回] ウ・海外研修については事前研修を充実させ、実施後の成果発表を実施、学校全体や社会に開かれた活動とする。 エ・自己診断(教員)「『学校組織』の項目」1～4の平均値が90%以上。 (3) ア・留学生との交流会・キャンパスツアーを実施。自己診断「国際交流の取組みが充実」(生徒)肯定的評価を 92%とする。[88%] イ・R6年度はオセアニア方面海外研修(夏)に加え、他校や業者アレンジの海外研修を実施予定。自己診断「英語教育が充実している」(生徒)、「他の学校にない特色がある」(生徒)の肯定的評価をそれぞれ 95%/95%とする。[90%/93%]	(1) ア・イ・グローバル科2年生の CEFR B 1 以上:65%/B2 以上:8% (△)・普通科2年生の CEFR B1 以上:31%。(△)・ 2年次より計画していた海外大学進学者は TOEFLIBT 72 以上、IELTS5.5 以上を取得済み。(○) (2) ア・6回実施(1年生2回、2年生4回)(◎) イエ・先進校視察2回、研修3回で、合計5回実施。(○) ウ・目標は確実に実施済み。(○) エ・84%で目標未達。(△) (3) ア・3学年平均が 92%。(○) イ・前者 90%、後者 93%で昨年と変わらず。(△)
3 「自主自律」「和親協力」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり	(1) 安全で安心な学びに向かう環境づくりの推進。 ア 生徒が相談しやすい環境づくりの促進。 イ いじめの未然防止、早期発見、組織的対応。 ウ 実行性のある危機管理体制の確立。 エ 食物アレルギー等に係る事故防止。 オ 人権教育の深化とその取組みの周知。 (2)生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立。 ア 情報モラルと生活習慣の	(1) 3年間の人権教育推進計画に基づき、講演・研修を通して生徒・教職員の人権意識・行動変容を高める。 ア・教員と SC の協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。 イ・いじめを根絶すべき最重要課題と認識し、未然防止、早期発見、早期発見に組織的に取り組む。 ウ・実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行い、自然災害等に備えた体制の確立を図る。 エ・食物アレルギーの事故は、いつ、どこでも起きるものだと想定し、すべての教職員が緊急時に対応できるよう、校内研修等の充実を図る。 オ・総ての教育活動で人権に関する学びを深めるとともに、保護者にも学校の取組みを周知するよう努める。 (2) ア・生徒の情報モラルや生活習慣の改善を図るために、日々の授業等あらゆる機会を通じて教員が温度差なく継続的に指導	(1) ア・学校独自の SC 相談を 10 回確保するとともに、定期的な相談室開放(教育相談支援委員が担当)について更なる周知に努め、自己診断「教育相談」(生徒)の「肯定的評価」75%以上[72%]。 イ・自己診断「いじめ対応」(生徒)の「肯定的評価」92%以上[91%]。 ウ・自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の「肯定的評価」67%以上[59%]。 エ・食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修を年2回実施し、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。[2回] オ・自己診断「命の大切さや社会のルール等について学ぶ機会がある」(生徒)、「人権について学ぶ機会がある」(生徒)の肯定的評価をそれぞれ 86%/93%とする。[80%/86%] (2) ア・遅刻者数 4500 名以下をめざす[5,789 名]	(1) ア・3学年平均で 75%超。(○) イ・3学年平均で 92%。(○) ウ・3学年平均で 70%超。(◎) エ・エピペンの使用方法について、現時点で2回実施。うち1回は外部講師による講習。(○) オ・前者 85%、後者 88%で前年より改善するも目標未達。(△) (2) ア・4,940 名(△)

府立箕面高等学校

	定着。 イ 自主的な活動の推進。 ウ 教職員の働き方改革をふまえた生徒の自主活動や部活動の実現。 (3)地域社会への情報発信、連携と協働。 ア・地域への協力を推進。 イ・情報発信の充実。	を行う。 イウ・「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、学習と部活のバランス及び教員の働き方と生徒の活動のバランスをとりながら成果をあげる。 ・ボトムアップ方式を導入し、生徒自治の確立に努める。教職員の意識改革も行い、「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り働き方改革に努める。 (3) ア・生徒会や部活動を中心とした地域のイベント等への積極的参加。 イ・電子媒体や紙媒体、各種広報活動を通じた情報発信の更なる充実。	イウ・自己診断(生徒)の「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」の「肯定的評価」94%以上。[93%] ・自己診断「生徒会活動の活性化に工夫」(教員)の「肯定的評価」93%以上[93%] ・時間外在校等時間全教員平均 30 時間以下[27.8 時間] (3) ア・年間5回の参加(新規) イ・本校学校説明会・見学会ののべ参加者を令和5年度以上とする。(新規) [4,169 人]	イウ・91%にダウン。(△) ・90%。(なお、昨年度の数字は 84%が正しい)(△) ・26.2 時間(◎) (3) ア・ダンス部、チアダンス部、吹奏楽部のパフォーマンス披露に加え、放送部による定期的な箕面ラジオへの出演もあり、年間 10 回を超える。(◎) イ・3,200 人(△)
4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取り組み	(1)教科会議・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員研修の充実、学校組織力の向上。 (2)探究授業や教科の枠を超えた取組みの深化、推進。 (3)ICT の活用 (4)「働き方改革」の推進。	(1) ア・教科会議を授業力向上及び生徒の希望する進路実現のための研修の場として位置付けるとともに、積極的に研究授業を行うことで、教科としての授業力向上を図る。 イ・テーマを立てた相互授業見学や外部の教員研修・講習会に参加する等、教員の授業力向上を図る。 ウ・個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行うことで、校務マニュアルの効果的な活用をしながら、チーム箕面・オール箕面で学校運営を推進する。 (2) ア・一部の教員に偏らぬ、全教員を挙げての探究学習への取り組みを推進する。 イ・教科等横断用マトリックス表の作成深化とその活用の具体化。 (3)令和6年度から使用する電子黒板等の教室 ICT 機器の活用とその効果を示す。(時間外勤務の短縮等) (4)安全衛生委員会と連携し、教職員の安全及び健康の保持、ならびに快適な職場環境の整備・促進に努める。 ・教員の業務改善を図り、生徒と向き合える時間を確保する。	(1) ア・自己診断「『学習指導』の項目」(教員 項目 8-12)の「肯定的評価」平均 94%以上[93%] イ・全教科で研究授業年1回以上を維持[1回] ・相互授業見学教員一人当たり平均3回以上[3回] ウ・自己診断「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。」肯定的評価 84%以上[81%] (2) ア・イ・令和6年度学校教育自己診断(教員)において、本件に関わる新しい項目を設け、いずれの「肯定的評価」も 80%以上とする。 (3)校内授業見学シート「ICT 等電子機器を適切に活用」の項目で ○(良い)以上の教諭を 70%以上とする。令和8年度には 100%をめざす。 (4)ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均(99)以下を継続する[96] ・自己診断「気軽に相談しあえる人間関係ができている」(教員)の「肯定的評価」85%以上[91%] ・自己診断「先生方は、生徒の意見を聞いてくれる」(生徒)の「肯定的評価」85%以上[85%]	(1) ア・88%に下落。(△) イ・全教科で研究授業年1回以上実施、また 教科横断的視点からの相互見学を実施。教員一人当たり平均3回以上を達成。(○) ウ・86%で目標を上回る。(◎) (2) ア・イ・当該項目に直接関わる項目未設定。(△)探究学習の取り組みや教科横断型授業の取り組みは推進できている。 (3)87%となった。(◎) (4)総合健康リスクは 104 に上昇。(△) ・88%で目標達成。(◎) ・89%で目標達成。(◎)